

ISO上層委員会報告会 第111回 ISO理事会 報告



一般財団法人日本規格協会
システム系規格開発ユニット
中川 梓

ISO Council (理事会)

◆ ISO理事会とは

- ISOの中心となる統括組織
- 構成：ISOメンバー機関代表20名、ISO役員、政策開発委員会議長 (CASCO、COPOLCO、DEVCO)
- 議長：ISO会長または副会長(政策)
- 年3回の会合
- 財務監事、TMBメンバー、政策委員会議長の指名

◆ 理事会メンバー機関

グループ1

AFNOR(仏) (2020)
ANSI (米) (2020)
BSI(英) (2020)
DIN(独) (2020)
JISC(日) (2022)
SAC(中) (2022)

グループ2

ABNT(ブラジル) (2021)
KATS(韓) (2022)
SCC(カタ) (2022)
SIS(スウェーデン) (2020)
UNE(スเปน) (2021)

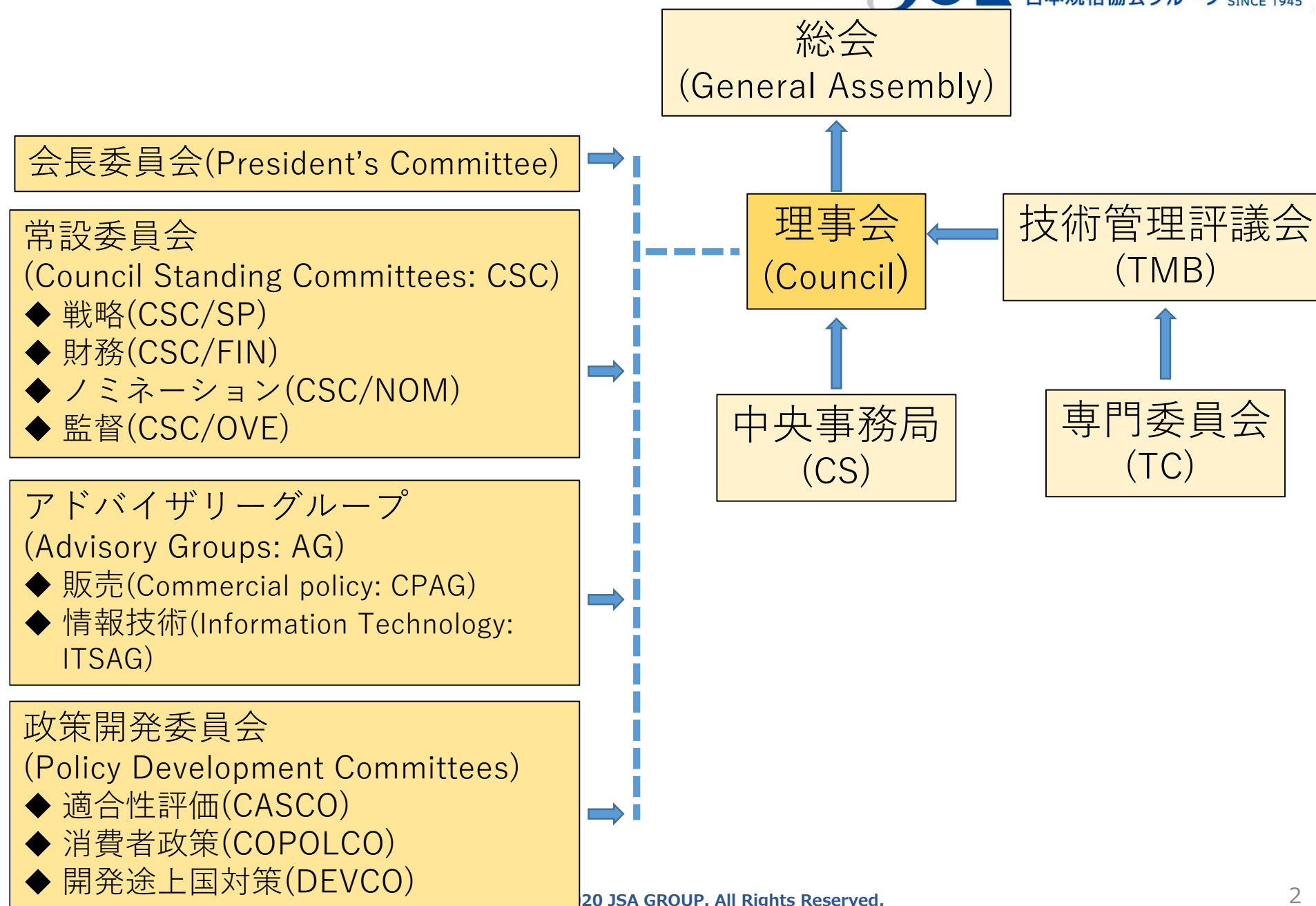
グループ3

BSN(インドネシア) (2020)
ESMA(アラブ首) (2022)
IRAM(アルゼンチン) (2021)
KAZMEMST(カザフスタン) (2020)
SOSO(サウジアラビア) (2021)

グループ4

HZN(ロシア) (2021)
INACAL(ペルー) (2022)
INTECO(コスタリカ) (2020)

ISO Council (理事会)



第111回 ISO理事会 及び 関連会合

2020年2月17日	
10:00-13:00	会長委員会
14:00-17:00	新理事会メンバーへの導入セッション
17:00-17:30	CSC/OVE新メンバーへの導入セッション
17:30-18:45	CSC/OVE
2020年2月18日	
09:00-16:00	CSC/SP
09:00:15:30	CSC/FIN
16:30-17:30	CSC/NOM
2020年2月19日	
09:00-13:00	ISO戦略2030に関する理事会ワークショップ
14:30-17:45	理事会
2020年2月20日	
09:00-17:00	理事会

第111回 ISO理事会

- 理事会及び常設委員会の会議が、2020年2月17-20日にかけて、ISO中央事務所（ジュネーブ）で開催された。
- 今回の理事会では、理事会メンバーによるワークショップを開催し、ISO戦略2030についての議論が行われた。
- 本資料では、理事会での主な議論、決議事項をご報告する。

議題4～事務総長の活動報告

<主な報告事項>

- 2019年の成果
 - 1638の規格/出版物。中央事務局での処理時間は短縮
 - 売上1820万CHF。新しい財務モデルの導入
 - 112件のキャパビル活動
 - eCommitteeへ変換中－12の委員会で成功裏に運用
 - ISO戦略2030の策定
 - 総会、3政策開発委員会（CASCO、COPOLCO、DEVCO)の総会をアフリカで開催
- 2020年の見通し
 - 取り巻く環境－景気が未だ不調、貿易転換、COP25、コロナウイルス、etc
 - 主要なプロジェクト－ISO戦略2030に対する2021年戦略実施計画、地域エンゲージメント方針、新アクションプラン（発展途上国支援、IT戦略）、IECやITUとの協業 etc
- 事務総長の活動
 - ISOメンバーとの関係を密に－地域グループの会合への参加、メンバー訪問等を実施
 - 他の国際組織やパートナーとの関係強化－IECやITUとの協業

議題7.2～2019年戦略実施計画の進捗

<背景>

- ISO戦略2016-2020に対する2019年戦略実施計画
- 2019年実施計画の進捗を四半期ごとにCSC/SPと理事会に報告することになった（2018年9月 決議43/2018）。今回は2019年12月31日現在の報告。
- 戦略実施計画を更新し、戦略実施計画に含まれる各プロジェクトのパフォーマンスと達成状況を示す
- 計画に含まれるプロジェクトのステータス、進捗度を確認し、全般、リスク、懸念事項、リソース、財務、適時性の観点で各プロジェクトの健全度を評価

<主な報告事項>

- 16件のプロジェクトのうち、6件が計画通り完了。6件が問題なし、3件が進捗はしているがリスク、懸案、リソースなど若干問題あり、1件が中止。全体として99%のマイルストーン達成率

議題7.3～2020年戦略実施計画

<背景>

- ISO戦略2016-2020に対する2020年戦略実施計画を承認(2019年9月)
- 実施計画には9件のプロジェクトが含まれ、うち6件が2019年からの継続案件、3件は下記の新規案件。
 - ジェンダー平等に関する行動計画の実施
 - 地域関与ポリシーの作成
 - ISO見通しの枠組みと実施(R&Iプロジェクト)
- 実施計画は定期的に進捗の確認を受ける。

<審議内容・結果>

- 実施計画の最新版が提示され、理事会の承認を受けた（決議5/2020）
- 第110回理事会に提示された内容から大きな修正はないが、各プロジェクトのオーナーが示され、責任の所在が明示された。

議題6.3～ISO会則及び施行規則の実施状況

<背景>

- ISO施行規則12項（ISOの方針、手順、プロセスの実施状況の定期的なレビュー）に基づき、CSC/OVEはISO会則及び施行規則の実施状況を年1回レビューすることとした。

<結果> 決議3/2020

- CSC/OVEは事務総長の報告書に基づき、会則/施行規則への準拠を確認し、規則と実運用とに齟齬が出ている事項を解消するための推奨事項を提示。
 - CASCOメンバーシップの例外事項を会則と施行規則に反映
 - 理事会メンバーの投票への対応状況を年次評価し理事会に通知すること
 - 副会長（財務）と財務監事の役割/責任を施行規則に明確化
- さらに今後のレビューは2年に1回実施することを提案。
- 理事会は上記を承認

議題10.3～理事会自己評価(2019年)

<背景>

- ISO施行規則12項(CSC/OVEは定期的に理事会のパフォーマンスを評価)に基づき、毎年、理事会の自己評価調査を行い、その結果を検討。
- 2018年9月～2019年9月までの調査を、2019年総会時に実施。
- パフォーマンスは2018年に続き2019年も良好と判断

<審議内容・結果>

- 自己評価調査時に寄せられたコメントに基づき、CSC/OVEが改善のための推奨事項を提示。
- 理事会は推奨事項を承認し、各理事会メンバーが議論によりよく参加・貢献できるように、会合に向けてどのように準備すべきかのベストプラクティスを共有するように事務総長に依頼（決議16/2020）

議題8.1～ISOとIECの協力

<背景>

- 前ISO会長のMr. John Walterを、ISOとIECの協力推進に関する特別顧問に任命。
- これまでIT関連を中心に協力を進めてきた。

<審議内容、結果>

- 理事会からは、IT関連だけではなく、戦略や将来展望などでも協力関係を築くべき、トップレベルだけではなく、事務局レベル、各国レベル等あらゆるレベルで両組織の協力を促進すべき等の意見が出た。
- 両組織の協力関係についてはISO側がリードしており、IEC側は必ずしもポジティブに対応していないとのコメントもあり。
- これを受け、協力関係が両組織にとって有益なすべての領域で協働を促進するよう特別顧問に求めるとともに、各ISOメンバーがIECメンバーでもある場合は、協力推進の重要性をIEC側にも伝えるように促すこととする（決議7/2020）

議題8.2～Dr. Zhang Xiaogangの「次世代賞」

<背景>

- もともとはDr. Zhang Xiaogang (中国)からISO/IEC/ITU賞として提案。
- 3組織間でこのような賞を運用するのは困難である等の議論を経て、sustainability-drivenの標準化に貢献する若い世代への奨学金を提供する、「次世代賞」として提案されることとなった。

<審議内容・結果> 決議 8/2020

- 本賞はDr. Zhang Xiaogang の個人資産によるもの。
- 本賞がISOに限定されるのは残念との意見があったが、2021年よりの開始が承認。
- 受賞者にはISO中央事務局に半年間出向する奨学金を授与。
- 2年に1回、ISO会長、副会長、事務総長、DEVCO議長で構成する選考委員会で受賞者を決定。

議題10.1 a)～TMBメンバーの選出基準の見直し

<背景>

- TMBメンバーの選出基準
 - 適格性基準
 - 少なくとも1つのTCまたはSCの幹事国、又は
 - 少なくとも1つのTCまたはSCで議長、又は
 - 少なくとも1つのTCまたはSCの幹事国を共同で
 - ランキング基準
 - TC、SC、PC幹事国数： 55%ウエイト
 - TC、SC、PCのPメンバー資格の数： 30%ウエイト
 - 支払ったユニット数： 15%ウエイト
 - ランキングに応じ3つのグループに分け、各グループより選出
- 第111回理事会(2019年9月)
 - 3年毎の見直しを実施
 - WGへの関与や幹事国ツイニングの数も重みづけに考慮できないかとの意見あり。

議題10.1 a)～TMBメンバーの選出基準の見直し

＜審議内容・結果＞ 決議12/2020

- WGへの関与や幹事国ツイニングを適格性基準に加味した案を事務局より提示。
- より多くのISOメンバー、特に発展途上国にTMBに参加資格を与えるようにとの観点から、基準を検討。
- WGコンビナーシップを適格性基準に加えることにより、適格性基準を満たすメンバー国が25増加。
 - WGコンビナーシップを加味すると6増加。幹事国ツイニングの加味は影響無し。
- 適格性基準にWGコンビナーシップも加えることとし、2020年の選出より適用する。

議題10.1 b)～TMBメンバー選出のタイミング

<背景>

- TMBメンバー15名のうち、自動的に任命されるグループ1の6名を除く9名(グループ2から5名、グループ3から4名)がローテーションすることになる。
- グループ3の4名が2020年末に同時に任期を終えることから、業務の継続性を考慮し、ローテーションバランスをとるための提案を行うことになった。

<審議内容・結果> (決議13/2020)

- 2021-2023年に向けての選出にあたり、グループ3の4名の内訳を以下とする；
 - 通常任期(2021-2023年) 2名
 - 任期1年追加(2021-2024年) 1名
 - 任期2年追加(2021-20256年) 1名

議題11～パイロットプロジェクトの提案

<背景>

- eCl@ssは、独、仏が主導する民間標準化コンソーシアム。製品/サービスの分類、記述特性の標準化を行い、種々のステークホルダー間での製品データの管理/交換のための規格として国際的に適用されている。
- 製品特性の標準化はeCl@ssとISO/IECの間で異なっており、互いに競合する規格は、インダストリ4.0における相互運用性の妨げになる。
- 統一された製品特性規格は、強い顧客ニーズである。

<審議内容・結果> (決議20/2020)

- DIN/DKEとeCl@ssで実施するパイロットプロジェクトをISO/IECレベルに拡大したいという提案あり。
- DINの提案を前向きに受け止め、ISOの戦略/方針、machine readable standardに関する方向性と合っているか、ライセンス契約を含め商業的な問題があるか等をCSC/SPで確認する。

議題8.4 ～ ISOlusionsプログラム

<背景>

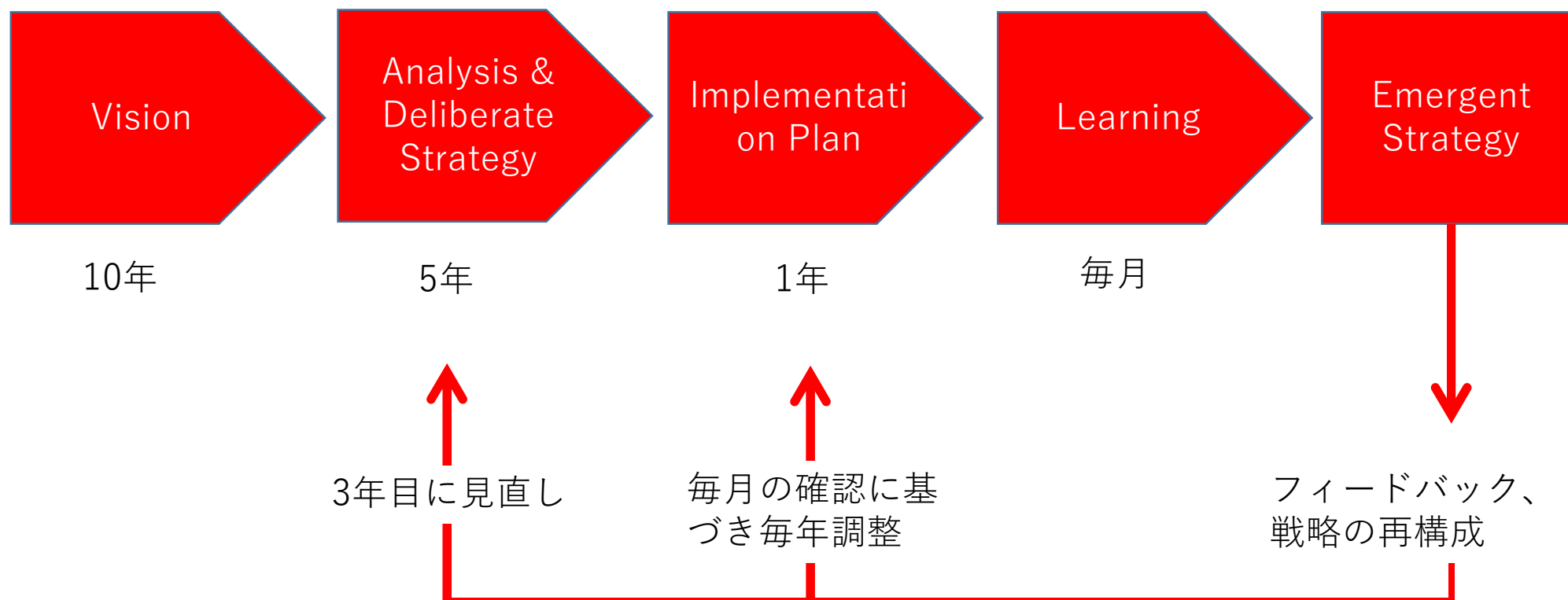
- ISOlusionsは、ISOメンバーの標準化業務を支援するためのITサービス。規格開発、出版、出版、マーケティング等のソリューションを提供。
- アンケート調査で、会議管理ソリューションへの期待値が高いことがわかった— 標準化業務においては会議への依存度が高い、関連のIT技術の支援のない/乏しい国が多い、ISOlusionsが提供してくれるなら使いたい
- ISOlusionsのウェブストアにnational contentを含めることを検討中

<審議内容、結果>

- ISOlusionsの業務範囲に、会議管理ソリューション含めることが提案され、理事会で承認(決議9/2020)
- National contentを含めることのメリットやリスク、財務的影響、技術的影響を評価する(決議10/2020)

議題7.1～ISO戦略2021-2030

<ISO戦略～タイムフレーム>



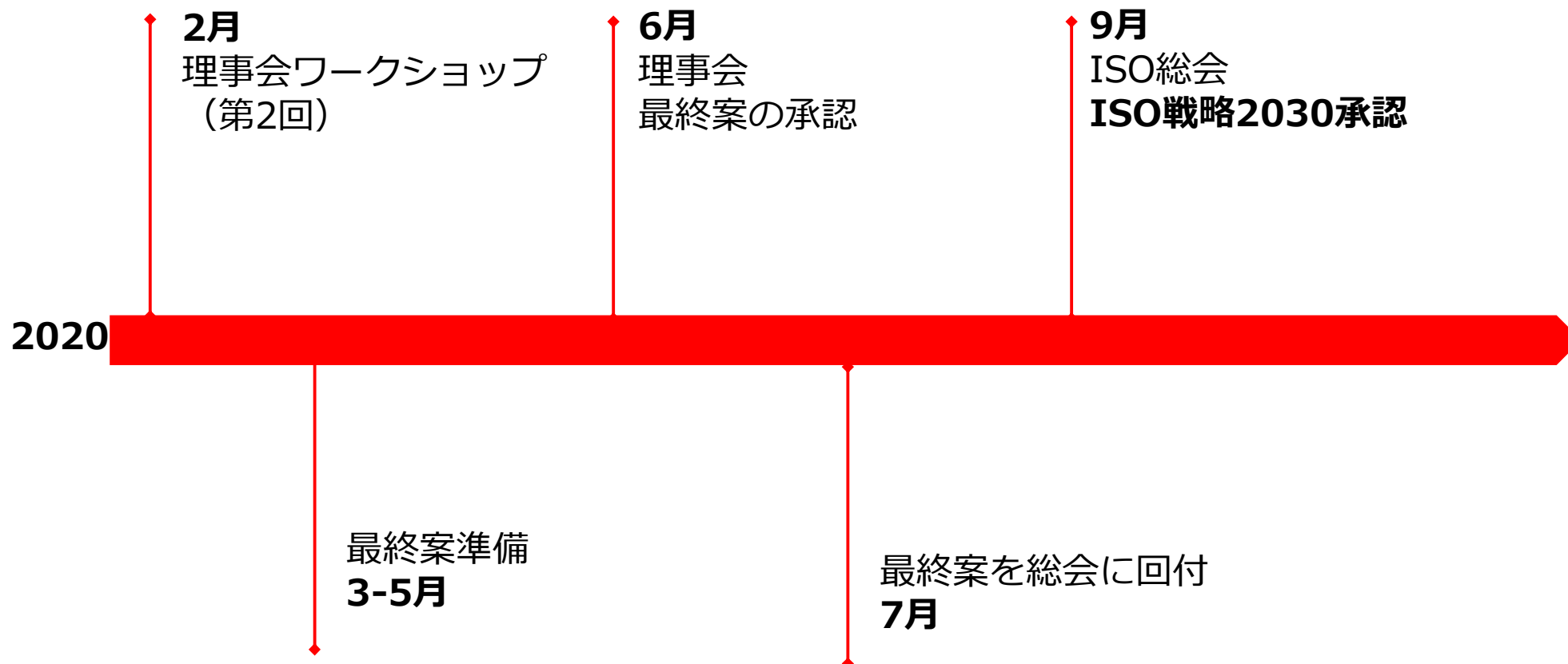
議題7.1～ISO戦略2021-2030

<これまでの経緯>



議題7.1～ISO戦略2021-2030

<今後の予定>



議題7.1～ISO戦略2021-2030

ISO戦略2030(案)の概要

- ✓ 常に変化する世界で生き抜くために、組織は、明確な方向性と目標を持たなければならない
- ✓ ISO戦略2030は、「我々の展望」「我々の使命」「我々のゴール」「我々の優先事項」を示す

変化の原動力 Drivers to change

- 経済：貿易と不確実性
- 技術：デジタルの影響
- 社会：期待と行動の変
- 環境：持続可能性の緊急性

- 我々の展望 Our vision - why do we do what we do
- 我々の使命 Our mission - what we do and how we do it
- 我々のゴール Our goals - what we need to achieve to realize our mission and vision
- 我々の優先事項 Our priorities

議題7.1～ISO戦略2021-2030

ISO戦略2030(案)の概要

■ 我々の展望 Our vision

Making lives easier, safer and better
生活をより楽に、より安全に、より良く

■ 我々の使命 Our mission

Through our members and their stakeholders, we bring people together to agree on international standards that address global challenges.

ISO standards support global trade, drive inclusive and equitable economic growth, advance innovation, promote health and safety, and create a sustainable future

我々のメンバー及びそのステークホルダーを通じ、我々は人々を結びつけ、グローバルな課題に取り組む国際規格に合意する。ISO規格は、世界貿易をサポートし、包括的かつ公平な経済成長を推進し、イノベーションを推進し、健康と安全を促進し、持続可能な未来を創造する。

議題7.1～ISO戦略2021-2030

ISO戦略2030(案)の概要

■ 我々のゴール Our goals

- ISO standards used everywhere どこでも使われるISO規格
- Meeting global need 国際ニーズに応える
- All voices heard すべての声に耳を傾ける

- ゴールを達成しているかの尺度

■ 我々の優先事項 Our priorities

- 変化する状況の中で、ゴールを達成し、影響力を最大にするため、資源を6つの優先事項に集中させる

議題7.1～ISO戦略2021-2030

ISO戦略2030(案)の概要

優先事項	Goals
ISO規格の便益を実証する	<ul style="list-style-type: none">● どこでも使われるISO規格● すべての声に耳を傾ける
市場で必要な時にISO規格を提供する	<ul style="list-style-type: none">● どこでも使われるISO規格● 国際ニーズに応える
国際標準化の将来の機会を捉える	<ul style="list-style-type: none">● どこでも使われるISO規格● 国際ニーズに応える
能力開発を通じてISO会員を強化する	<ul style="list-style-type: none">● どこでも使われるISO規格● すべての声に耳を傾ける● 国際ニーズに応える
ISOシステムの包含性と多様性を進める	<ul style="list-style-type: none">● どこでも使われるISO規格● 国際ニーズに応える
ユーザーのニーズを満たすために革新する	<ul style="list-style-type: none">● どこでも使われるISO規格● 国際ニーズに応える

ご参考～今後の予定

<理事会>

- 2020年6月10－11日 ウェブ会議
- 2020年9月22日 アブダビ
- 2021年2月24－25日 ジュネーブ
- 2021年6月9－10日 京都
- 2021年9月22日 ロンドン

<総会>

- 2020年9月23－24日 アブダビ
- 2021年9月23－24日 ロンドン
- 2022年9月22－23日 シドニー

総会のテーマは
“Innovation”

ご清聴ありがとうございました

お問い合わせ

日本規格協会グループ
国際標準化戦略ユニット

kousai3@jsa.or.jp